

鈴木舞 × 川口成彦 シューベルト・シリーズ開幕!
シューベルトの詩情が息づく——特別な二人が紡ぐ、極上の室内楽

シューベルトの詩情

ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会

2025年4月12日(土)
13:30 開場 / 14:00 開演

【入場料】
会員 4,500円(座席指定可)
一般 5,000円
学生 2,500円(全席自由席)

プログラム
シューベルト:
ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ 第2番 イ短調 D.385
華麗なるロンド ロ短調 D.805
高麗なワルツ集 D.969 (ピアノソロ)
ヴァイオリン・ソナタ 長調 D.574

川口成彦 (KAWAGUCHI Natsuki) Piano
1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育ち、第1回シューベルト国際ピアノコンクール第20、ブルジョア国際古典コンクール最高位、第1回ローマ・ゾルティピアノ国際コンクール優勝、フランクフルト五拍音楽祭や「シューベルトと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワシントン)を以て世界的音楽家に成長。2016年にアメリカで世界的な音楽家ニコラス・ダニエルと共に「アラウの詩情」をテーマとした「シューベルトの詩情」の録音を行っている。東京音楽大学・アムステルダム音楽院で指揮者としての活動も行う。父は小倉直久子、リナード・ウエーの音楽家。2019年6月19日にリリースされたCD「シューベルトの詩情」は、MUSICAを主宰する、第一弾として「シューベルト」2枚組CD「シューベルトの詩情」がアナログレコードでリリース。また、その音楽をこよなく愛し、2019年10月「シューベルトの詩情」を発売するレコード企画「朝日新聞特別」2024年4月ACQUSTIC REVIVE 2024年4月後述出版品「シューベルトの詩情」第40回日本音楽協会賞受賞。

鈴木舞 (SUZUKI Mai) Violin
東京都大田区立高校、河大学卒業、スイス、オーストリア、ドイツにて新進指揮者、マイアノマ、ドイツ国家演奏家自然を授け、グラーツ・ツェルムス・国際ヴァイオリンコンクール(クロアチア)第1位、オケラワズ室内楽コンクール(スイス)第1位、多の国際コンクールで優勝、入賞を重ね、ソロとして欧州、アジア、南米等でツアーを行う等、世界各地で素晴らしい演奏家として活躍。国内では、宮内庁主催皇居御礼演奏会の演奏員として、シマノハシ・ピアノ・コンクール・アーティストに選出された。セントローレンス、王子ホール等の主要なホールで公演を行っている。これまでに、ヨハン・バプティスト・モーツァルト、ニコラ・パグーニ、等の指揮者、スティーブ・スミス、フランク・ブレイク、マイケル・クワン、ニコニコ・ヴァイツ、流石日野、東野、日本フィル等と協奏演奏家として活躍している。レコードデビューCD「Mai favorite」シリーズ、日本コロムビア・CD「シューベルトの詩情」でデビューした。2025年3月に「シューベルトの詩情」シリーズ。使用楽器は株式会社Suzumiと貸与されている1822年製 Niccolò Amati "Grand Amati"

Vol. 1

https://x.gd/2pu53 @funitaka_sait

鈴木舞 & 川口成彦

Shibuya Music Salon vol.178

©Haruka Shibuya

鈴木舞&川口成彦 シューベルトの詩情 Vol.1

ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会

2025年4月12日(土) 開場13:30/開演14:00

【入場料】
会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)

鈴木舞 × 川口成彦 シューベルト・シリーズ開幕!
シューベルトの詩情が息づく——特別な二人が紡ぐ、極上の室内楽

シューベルトという作曲家は、音楽のなかに言葉にならない詩情を宿らせる天才だ。底知れぬ魅力を持つシューベルトの音楽を、鈴木舞 × 川口成彦デュオが表現するの——期待は高まるばかりだ。

若き詩人が静かに語りかけるような清澄さに、シューベルト特有の叙情と陰影が滲むソナチネ第2番 イ短調 D.385。
舞曲の高揚感と晩年の円熟が交錯し、単なる華やかさにとどまらない奥深さを秘めた華麗なるロンド ロ短調 D.805。
ワルツという形式を超え、洗練と気品に満ちつつも、奥に秘めた静かな哀愁が漂う高麗なワルツ集。
そして、若き日のシューベルトが音楽の喜びに溢れ、その喜びをそのまま譜面に書き留めたかのような、明るさと軽やかさが印象的なソナタ長調 D.574。
これらの作品を通して、シューベルトの音楽の本質が改めて浮かび上がることだろう。

さて、第1回から「本気度」が伝わる、シューベルトの室内楽ならではの輝き、熱情、品格、抒情性が凝縮された、非常に完成度の高いプログラムだ。

「シューベルトは表現が難しい」とよく言われるが、その理由を一言で表すのは難しい。彼の音楽には、ただ美しい旋律があるだけではない。シューベルトの心の機微に寄り添い、それを表現することこそが、演奏者に求められる。それは、言葉にならない思いが、時間の流れの中でふと立ち止まり、響きとなって私たちに語りかける瞬間。
どこか内省的ながらも、決して閉じたものではない。まるで、孤独の中にあっても、人が何かを語らずにはいられないように——かと思えば、物静かなシューベルトの内に秘められた芸術性が、突如として爆発するようなデモニッシュな一面を見せることもある。
シューベルトは決して単純な作曲家ではないのだ。

鈴木舞氏のヴァイオリンは、ダイヤモンドの粒が踊るような音色で、時に情熱的に、そして夢見のように繊細に、表情豊かに歌いあげる。
作品ごと真剣に音楽に向き合い、時に大胆に演じ切るその姿は、まるで女流剣士のような。
シューベルトの音楽は奏者によっては単調に聴こえてしまうこともあるが、彼女の演奏はその真逆。
軽き手を最後まで引きつける力に満ちている。
一方、川口成彦氏のピアノは、精妙なニュアンスに満ちたフレーズの美しさが際立ち、対話を重ねた響きで会場を包み込む。
彼のピアノは、語るように歌い、歌うように語る。
シューベルトの音楽を持つ詩情と妙にフィットするのは、偶然ではないだろう。その響きはまるで、シューベルトが部屋の片隅で即興を弾いているかのような、親密な空間を生み出す——

芸大時代の同級生である二人のアンサンブルは、まさに息がぴったりだ!二人とも本番だからこそ生まれる「インスピレーション」を大切に演奏家。だが、そもそもそのインスピレーションを与えられる存在であることこそが、彼らの天賦の才なのだ。

単なる技巧の見せ場ではなく、作品の奥にある「語られざるもの」に耳を澄ませるとき、そこにはきっと、シューベルトの音楽を持つ「言葉にならない詩」が満ち、無限の広がりを感ずることができるだろう。
このシリーズでは、そんなシューベルトの真髄を、じっくりと味わう時間となることだろう。(渋谷美竹サロン)

大ホールのプラチナ席をしのぐ “渋谷美竹サロンという楽器”の中で 味わう一期一会

世界に飛ばたく才能あふれる トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの演奏家たちが、こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき サロンメンバーズ 追加募集中!

「本物の音楽」を追求する。演奏者と参加者とわたしたちの、三位一体の努力と対話から生まれます。

誕生。 宮益坂、渋谷駅 徒歩2分 クラシック音楽サロン、渋谷美竹サロン

●お問い合わせ
株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)
070-2168-8484 (時間外可)
Fax 03(3409) 0188
公式ウェブサイト